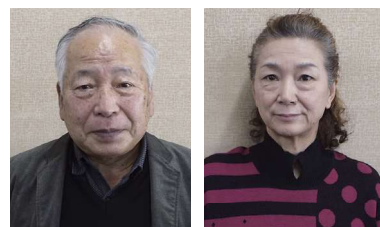


早め早めの人材発掘 役員の担い手候補への声かけ等、 「種まき」の重要性について



朝日プラザ幸町町内会 会長 さかいり 坂入 みきお 幹雄さん
総務部 がわくま 川熊 れいこ 礼子さん

マンション管理組合との連携

朝日プラザ幸町町内会はマンション住民による町内会として活動をしています。管理組合の理事長と町内会長が別々に存在し、互いに情報の共有を行いながら良好な関係の下、それぞれ運営を行っています。管理組合から集会所を借りて町内会の茶話会等を開催したり、町内会の規約や町内会入会届を管理人さんが転入者に渡してくれたりするなど、管理組合の協力を得ながら連携して活動を行っています。

日常的な声掛け 青年部を立ち上げる

7年前に会員からの申し出により青年部を立ち上げました。7人で構成された青年部ですが、その多くは50代前後の現役世代の方でした。職場やPTA等でも活躍されている方が多く、その経験により培った知識や行動力が今後の町内会活動に必要なだと考え、声かけを行ってきました。

青年部を立ち上げたきっかけは、住民の中に病院関係者があり、防災訓練の時に救命救急の指導を行ってくれたことでした。その方の声かけでメンバーが集まり青年部が立ち上がりました。良い悪いは別にして、やりたい人には任せてみる。自分たちで考えてやりたいことをやれば良いと思っている。有望な人材に若いうちから町内会活動に携わってもらうことが大切だと考えています。その後、女性部も立ち上がり、敬老会や茶話会、趣味の講座などを開催しています。

早め早めの種まき 誰もが役員を経験する仕組み

令和5年11月現在、117世帯で構成されていますが、役員は班長も含めると34名になります。誰もが役員を経験する仕組みは、長い間、町内会で活躍していた方が、急な転勤や転居等によりいなくなってしまうことがあり、残った人でその業務を分担したらとても大変だったという経験から生まれたものです。

班長を1年単位の輪番制にし、班長の役目が終わった次の年には役員を1年間担うという町内会のルールが

あります。「班長1年・役員1年」を1周期とすると、7～8年に1度は町内会運営に携わることになります。名前が入るだけでも意識が変わると感じているほか、3年目以降も担ってもらえる方には積極的に声を掛けています。総務部の川熊さんによると、「会長が大丈夫！大丈夫！と声掛けしてくれるから引き受けてくれる。それがいいんだと思います。」とのこと。町内会運営に多くの人を巻き込み、次世代の人材確保に繋がっています。



町内会からの情報発信 LINEグループの活用

10年前から、町内会からの各種お知らせやイベントの開催案内、関係機関の情報等を、会長が自ら編集して町内会広報誌を発行しています。町内会の情報をもっと知りたいという住民の声がきっかけでした。A3版に印刷し回覧しています。原稿を依頼するとみんな書いてくれる。子供会の方はLINEで原稿や子供の様子が分かる写真を送ってくれる。LINEをやって良かったと思っています。

次世代の担い手の育成へ

ここ数年、青年部の方々の転勤が相次ぎ、力仕事ができる方が少ない状況にあります。夏祭りのテントが立てられなくて、他の町内会に依頼することもあります。そこで、中学生や高校生にも声を掛けて、町内会の活動に参加してもらい、学生の頃から様々な経験を積んでもらうことで、災害が発生した時に力を発揮してくれるのではないかと考えているところです。中・高校生にも声を掛け、たくさんの経験を積んでもらうことで、次世代の担い手を育成することにつながっていきたいと考えています。